

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000088		
法人名	中城興産株式会社		
事業所名	グループホームつくえ(西ユニット)		
所在地	岩手県下閉伊郡田野畑村机299番地		
自己評価作成日	平成28年10月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-sokensaku.nhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0393000088-008P_ofCd=03&Ver_si_Cd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成29年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念「日々笑顔、日々楽しく、自由なあなたらしさをささえるケア」をもとに利用者が生きがいをもち楽しく安心に笑顔が絶えない環境を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

台風10号による甚大な被害を受けた地域の認知症をもつ高齢被害者の緊急受け入れを行った。定員オーバーの受け入れの中で職員はチームワークを図りながら安心安全なサービスを提供している事業所でもある。職員は事業所の支援を受けながら介護福祉士、ケアマネジャー等の資格取得に向けて挑戦している。廃校された小学校を改修してつくった事業所は体育館もある。体育館は沢山のイベントの会場として、また、利用者にとっては雨の日の散歩コースになったり、そこでボール投げをする等、日々レクリエーションを楽しむ場として有効に活用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の「日々笑顔、日々楽しく、あなたらしさを支えるケア」をもとに安全、安心、満足を提供している	随所に掲げている基本理念は、管理者と職員間に浸透し共有している、さらに朝礼では必ず唱和することで再認識し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域や施設のお祭りや行事に参加したり地元の婦人部等に参加してもらい交流している	事業所に隣接して民家があったり、道路沿いに民家が点在しており、散歩中に野菜をもらったりと日常的な交流がある。地域内で行われる行事にも職員、利用者ともに積極的に参加している。文化展には利用者の作品も提供した。8月の納涼祭、9月の敬老会等は地域の子供達や踊りの団体の参加もいただき、交流を深める機会になった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への貢献の実績はないが、貢献できる体制作りはしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者状況、施設の活動を報告し取り組みについての話し合いや意見をもらっている。利用者と同じ昼食を食べたり救命講習も実施している	机上の会議だけでなく、事業所の状況を見たり、体験してもらうことで実質的な協力も得られている。会議は2ヶ月に1回行われており家族も参加している。会議の内容として事業所の取り組み、課題についての意見交換の他、計画的に協議テーマを設定、食事検討会、救命入門コース講習等も組み入れる等、効果的な会議を運営している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月地域ケア会議に出席し役場や他施設の担当者、地域包括支援センターと連携をとっている	事例検討、研修会、連絡調整等、密に連絡を取り合っているが、災害時や状態の急変時の対応となると事業所だけでの対応が難しいことから、これらの対策についても検討したいと考えている。	行政(市町村)の力をもっと活用し、日頃からボランティア等との協力関係を深めるなどしてケアサービスに取り組まれることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全確保のために玄関の施錠の工夫や身体拘束廃止委員を構成し日々ケアの向上に取り組んでいる	拘束をしないケアの提供に向けて、身体拘束委員を組織し、話し合いを持ちながら、拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。転倒防止対策として、夜間のみ、離床センサーを活用している。マニュアルはある。今年度は、研修会は実施していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について知識をつけ防止に努めている。入浴時や更衣交換時に身体に異変が無いか確認し記録している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性の話し合いはしていないが必要性があれば地域包括支援センター等と連携し支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する時、契約内容や重要事項説明を不安や疑問点を確認しながら理解、納得してもらうようにわかりやすく説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置や苦情窓口を開設している。日々の日常会話から聞いたり面会時や運営推進会議に意見や要望を聞き運営に反映している	日常の中から家族や本人の思いが見えることがあるので、事業所広報で発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の面談や管理者会議を開き意見や提案を聞く機会を設けている	運営者と職員が、個別に年1回面談している。そこの要望や問題点は、改善に結びついている。例えば、加湿器が設置されたり、トイレに暖房が設置された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望する勤務条件に出来る限り応えている。昇給、資格手当、夜勤や宿直手当、賞与の支給に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加したり資格取得の為に研修等に配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お祭り等の行事への参加や研修会、交流会に可能な限り参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主訴や表情等、非言語コミュニケーションを感じとり良好な関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等とのコミュニケーションが少なく関係作りや要望等が理解できていないことがある		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の求めている支援に対応できるよう努めている(通院介助等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に掃除や洗濯ものを干したり畳んだりし助け合える関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が少ない為、施設広報を家族等に送付し、本人と家族等との絆や関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう面会を自由に受け入れたり、ドライブレクにて馴染みの場所等に行っている	定期的に来所してくれる地域の床屋さんや馴染みとなり、利用者が当初の「お任せ」から徐々に「髪の長さについて注文する」等行動に変化もみられるようになってきている。災害や死亡、転居などで今までの馴染みの関係が維持できなくなっているため、新しい関係づくりにも気を配っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないようレク活動を行うと同時に良好な関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームを退所し他施設に入所された方を当ホームの夏祭りに招待している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日一人ひとりの思いが違うことを理解し、傾聴を行い希望や意向の把握に努めている	本人の意向は日常生活の状況から職員が察知し、可能な限り家族と相談し、検討している。自分のやりたいことを伝えることができない利用者もいるが、居室訪問時等、伺うタイミングをつくりながら把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用の経過等、生活環境、馴染みの暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状把握をカンファレンス等で情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はチームで作成されていないが職員間や本人と話し合えるよう努めている	全ての場面で関係メンバーが話し合い検討している。課題等が発生した場合は、必ず全員で話し合い、検討をすることになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し情報共有に努めている。必要な場合は介護計画の見直しを促している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めるよう研修等に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を心掛けているが、地域と職員一人ひとりとの繋がりがまだ足りないと思われる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との良好な関係作りを行い、適切な医療を受けられるよう支援している	地域にある診療所を主に利用している。受診時の同伴については職員が対応することが多い。医療者との情報共有は口頭で行っている。受診結果についての家族への報告は電話で行うことが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所等の看護職と情報共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を定め関係者と情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護は行っていないため、重度化や終末期に向けた方針は定めていない	事業所の立地や医療機関との連携が難しい状況ではあるが、最期まで(ここに)いたいという本人、家族の要望に応えられるよう勉強会を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず、特に夜間職員全員が避難方法を身につけていないと思われる	設備を整え訓練も実施していて、この度の台風災害時に活かされたが、立地的に孤立した場合の備えの必要性を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	多忙になると言葉かけや対応が適切になることがある	利用者への言葉遣い、配慮等について職員間でお互い気づいた事は、その都度、伝え合うことで改善につなげている。職員間で、注意し合い、反省し合える環境を作り、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出や自己決定の支援をコミュニケーションを通して行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まり(食事時間や入浴等)は行った後、本人のペース、希望に沿って支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるよう栄養バランスを考えながら好みに合わせるよう努めている。テーブル拭きや煮干しの頭取り、もやしのひげ取りなど職員と一緒に食事準備を行っている	地元の食材をできるだけ利用し、利用者の要望や必要性を大切においしい食事を提供する努力をしている。利用者にはサラダ用のジャガイモをつぶす、お皿拭き等の作業に参加してもらっている。お誕生食、松茸ご飯、お節料理等行事食、季節食も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給の支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを嫌がる利用者があるが最低夕食後の口腔ケアは徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみ声掛けを行っている。動作が緩慢な利用者もいる為、早めのトイレ誘導の声掛け、失禁時の清拭、交換対応を行っている	声がけしながら対応している。入居前まで寝たきり、おむつを使用していた利用者が、入居後、自力排泄可能となり、自立したことで表情も明るくなったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用や食物繊維を多く含んだ含んだ食事提供、水分補給、適度な運動を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務の都合により午前中の中の入浴だが、希望の曜日に入浴を支援している利用者もいる	週2~3回、1日3~4人の入浴支援を行っている。午前8時にバイタルチェックし、状態を観察しながら安全な入浴を支援している。本人の希望に添って入浴できるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠の為の空間作り、休息が自由に出来るよう支援している		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の注意事項、相互作用、副作用についてすぐに確認できるよう「服薬情報」としてファイルしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう利用者一人ひとりに寄り添って支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆や正月等家族と外出できるよう支援し、本人の希望に出来る限り支援している	うねとり神社、机浜等にドライブに出かけることもある。事業所の敷地内の庭(校庭跡地)にでて散歩、土いじりをする利用者もいる。見守り体制で支援している。希望に添った対応を心がけているが、対応が難しい場合もあり、ボランティアの支援の必要性も考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し本人が管理できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を自由に行なえる支援を心掛けている(携帯電話の使用等)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を清潔清掃に努め、不快や混乱を招くような刺激がないようわかり易く工夫している	玄関には、社長手作りの広報を配置し、廊下の壁には利用者の家族が撮影したイベント時の写真、利用者が描いたぬり絵等を掲示している。トイレの暖房や、加湿器を有効に使用するなど、利用者への配慮がさりげなくしており、心地良い空間作りのための工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にコミュニケーションが出来たり、一人になれたりできる空間作りを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を活かしリロケーションダメージの軽減に努めている	広いスペースの居室も整理がなされている。持ち込みの制限はしていないが、写真など馴染みの物を持ち込む利用者は少ない。ベッドやクローゼットは、利用者の希望を取り入れながら配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることやわかることを活かし自立支援を行っている		